



梨花

題字/ 故西尾邑次
元名誉会員揮毫

第75号

2024年10月10日発行
東京鳥取県人会事務局

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館10F

電話 03(5212)9178

FAX 03(5212)9079

発行責任者/福井宏一郎

編集/県人会広報部

<https://www.pref.tottori.lg.jp/tokyokenjin/>

新入会員歓迎会

9月2日、新入会員歓迎会をとりおかやま新橋館2階もてなし家にて開催しました。福井宏一郎会長の歓迎挨拶で始まり、勝部副会長による乾杯、歓談、県人会の活動を紹介(交流部会・市川副会長、広報部会・長尾副会長、総務部会・勝部副会長)、そして新入会員の自己紹介へと進み、楽しい歓迎会でした。参加された新入会員をご紹介します。なお、新入会員総数は45名でした。(敬称略、50音順)



①足立博史(米子市)リハビリに携わる仕事をしています。この度、系列病院間の異動で東京へ赴任いたしました。よろしくお願ひします。趣味はボート(≠競艇)です。米子市民レガッタに参加して以来、10年以上愛好しています。仕事が落ち着き次第、東京でも漕げる場所を探予定です。

②有本真紀(旧八頭郡河原町)歴史社会学と音楽教育で、現在の研究課題は「戦前期の儀ト容器、野球場内の飲食容器等」やプロトン凍結機、冷凍食品・環境包材を販売。近年では世界各国で騒がれているPFAS問題に対応した紙製品を開発・販売しました。趣味は高校・大学で水球をしてきた関係でスポーツ観戦、音楽や映画鑑賞、珈琲ドリッ、日本酒など。③井田昌平(日吉津村)よろしくお願ひいたします。学附属小・中学校の同級生がしくお願ひいたします。④梅林 淳(米子市) ⑤大田 徹(旧東伯町)元・県庁東京本部の山本様より紹介をうけ、入会に至りました。現在、(株)シンギ東京支店にて、食品容器(駅弁容器やデザート容器、野球場内の飲食容器等)やプロトン凍結機、冷凍食品・環境包材を販売。近年では世界各国で騒がれているPFAS問題に対応した紙製品を開発・販売しました。趣味は高校・大学で水球をしてきた関係でスポーツ観戦、音楽や映画鑑賞、珈琲ドリッ、日本酒など。⑥音田裕司(旧羽合町)都内の公立学校で教員をしていますが、クラスの子もたちに、「お雑煮は小豆」「天ぷらにはソース」「羽合出身であること」など、砂丘や梨以外の鳥取県の魅力を発信し続けています。また、鳥取県出身の保護者の方に出会うこともあります。今後も、鳥取県よさを伝えていきたいです。⑦金井朱美(大山町) ⑧河津象司(米子市) ⑨國永大二郎(米子市) ⑩熊笹御堂 朋子(鳥取市) ⑪小西恵子(日吉津村)米子南校同窓会が解散となり。こちらの会を知ったため。松嶋一海(会計幹事)は父のいとこにあたります。⑫村修一(鳥取市) ⑬田中俊平(米子市) ⑭中西凌太(旧北条町)このたび県人会の方のお誘いで入会させていただきました。北栄町出身で、倉吉東高を卒業、大学進学で上京し、そのまま東京で就職しました。現在、中目黒で不動産業をしており、弊社代表も境港の出身で、これを機に一緒に入会いたします。東京の不動産についてお困りのことがあれば、お気軽にご相談ください!! ⑮中村晃治(境港市) ⑯中山大資(鳥取市河原町) ⑰西村良英(日南町)米子工業高校の関東米工に県人会事務局の方が来られ、県人会の存在を知り入会しました。8月に日南中の同級生で米子に集まり50歳の同窓会が開催されるのでとても楽しみです。米国No.1のメットライフ生命に勤務しながら成果主義の世界でギリギリ戦っています。困っているお友達がいらっしやったらご紹介ください。スポーツカー、バイクでのツーリングが大好きです。つくばサーキットや、箱根ターンバイクなど時々攻めています。⑱橋詰まり子(鳥取市鹿野町)弟が「鹿野町」の「まちおこし」の活動をしており、よく鳥取県人会にうかがっていたことから知っていました。入会したいなという気持ちがあったのですが、仕事が忙しく今日に至ってしまいました。看護師として働き、病院を定年退職したのを機に夫と2人で「地域に根ざしたデイサービス」と千駄木の谷中銀座の前にデイサービスを開設して早や「13年」たちました。その間夫は亡くなり、娘が現在「経営」を担ってくれており、8年前に「NPO法人」に変更しました。現在「地域密着型」18人定員のデイサー

令和6年総会と懇親の集い
都市センターホテルで開催されます。皆さまのご出席をお待ちしています。

ビスで看護師2人体制により「胃ろう」「在宅酸素」「難病」「末期癌」「骨折後のリハ」「統合失調症」もちろん「認知症」等いろいろな「疾患」に対応しています。「笑いのある、お喋りで楽しい」デイ!! 又は自立の方向へ頑張っています。今後とも身体の続く限り、楽しく元気に過ごせるデイをめざして頑張っていきたいと思っております。⑲羽原大介(倉吉市)都内世田谷区在住、脚本家です。一昨年(2022年)、平井知事より県政アドバイザーに任命されたことを機に入会させていただきました。その後倉吉市の広田市長より未来アドバイザーにも任命されました。⑳林原有香(大山町) ㉑原田雄介(米子市)米子西高校から日本体育大学へ進学し、大学まで野球を続けておりました。現在は、アスリーのマネジメント会社に勤務をしており、五輪での活躍を目指す傍ら、引退した選手のセカンドキャリアと一緒に歩んでおります。弊社のアスリートが、県人会のイベントに招いていただいた際に、鳥取県にも県人会があるので、は・・・、と思ったことが入会のきっかけです。上京している諸先輩方とのつながりを大事にできればと考えております。㉒福岡 保(ゆかり地域:鳥取市) ㉓牧村文仁(鳥取市田島)長尾副会長様にご紹介いただきました。趣味:ドライブ、車いじり ㉔松本 武(米子市)銀座の伊織の岩田ママに誘っていただき、この度入会いたしました。境港市の丸合、ユニサン、葦屋書店、やよいデパートへ、親に買い物に連れて行っても

らうことが楽しみでした。東京では、隅田川、小名木川、大横川、仙台堀川に囲まれた清澄白河に住んでおります。また、2020年に会計士・税理士として独立し、自宅に加入して事務所も江東区の清澄に邁進しつつ、川を見ながら故郷の中海を思い出し、ほっと一息ついております。㉕三谷昌平(鳥取市)中学高校のクラスメートの武田博史さんの紹介でこの会を知りました。高校卒業後、東京に出てきてから2年間の外国生活以外は首都圏で生活してきました。専門分野は研究・教育・医療です。㉖宮上翔大(八頭郡八頭町)同郷の知人より「東京で活躍している鳥取県出身の人たちが集まる会があるのだから入ってみないか。」と紹介いただいたのがきっかけで入会を決めました。一人でも多くの人の将来の夢や目標をかなえるサポートができる人を目指し、ファイナンシャルプランナーとして金融業界で勤務しています。鳥取県人会への入会をきっかけに、東京での暮らしをより良いものにしていきたいと考えています。㉗山本 周(若美町浦富)私は、令和4年に母親の美家の岩美町浦富にある高田酒造場の会社代表に就任しました。小学校の低学年の頃、両親と一緒に鳥取から東京に引っ越しして以来、60年以上東京に住み続けています。今は、鳥取と東京を月1回の頻度で往来しています。昨年、若美町出身の東京在住の方の集まりに参加し東京鳥取県人会を知り入会することにいたしました。㉘山本直諒(琴浦町)

株式会社 不二家 FUJIYA 代表取締役会長 山田 憲典 〒112-0012 東京都文京区大塚 2-15-6 TEL: 03-5978-8100

株式会社 チューブ 取締役会長 大田 英二 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 2-7 ITOビル 6F TEL: 03-5640-8122 FAX: 03-5640-8100

令和6年 全国新酒鑑評会 金賞受賞 千代むすび酒造株 代表取締役 岡空 晴夫 〒684-0004 鳥取県境港市大正町131 TEL: 0859-42-3191 FAX: 0859-42-3515

地域の夢、お客様の夢をかなえる 創造的なベストバンク 山陰合同銀行 東京支店 支店長 山根 寛樹 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 15-6 TEL: 03-3669-0211 FAX: 03-3639-5250 URL: http://www.gogin.co.jp

ねんりんピックはばたけ鳥取2024が鳥取県で初の開催!

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、60歳以上の方をはじめ、すべての世代の方が楽しむことのできる、スポーツ、文化、健康と福祉の総合的な祭典です。

令和6年10月19日(土)から22日(火)まで、「咲かせよう 砂丘に長寿と 笑みの花」をテーマに、鳥取県で初めて開催されます。

【見どころその1】鳥取県内全19市町村で29種目の交流大会を開催!

今回の大会期間中、鳥取県内全ての市町村において、29種目の交流大会が開催されます!

・競技種目はテニスやゴルフ、水泳などのなじみの深い種目はもちろん、バタンク、eスポーツ、バウンスボールなどの年齢にかかわらず取り組める協議も開催されます。

○ペタンク(開催地:三朝町) ペタンクは、フランス発祥の球技で、昭和40年代に日本でも本格的に普及し始めました。

○eスポーツ(開催地:境港市) eスポーツ(エレクトロニック・スポーツ(electronic sports)の略称。)の最古の全国規模のゲーム大会は、1974年に日本で開催された「セガTVゲーム機全国コンテスト」だと言われていました。日本でも娯楽としてだけでなく、その競技性・健康増進の効果に着目したeスポーツイベントも開催され、eスポーツの競技人口は、世界全体で1億3,000万人、日本では約400万人といわれ、老若男女問わず多くの人に親しまれる競技となりました。

「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」では、3人1組のチームで得点を競う Nintendo Switch 版「太鼓の達人 ドンダフルフェスティバル」を種目とします。

○バウンスボール(開催地:倉吉市) バウンスボールは鳥取県発祥のスポーツで、年齢や性別を問わず楽しめる生涯スポーツとして考案されました。3人1組を基本として、柔らかい専用のボールをバウンドさせながら手のひらで打ち合うスポーツです。(コートの大さは5×12mです)「70歳以上はツアーバウンドで返球で

きる」という特別ルールもあり、軽く柔らかいボールの予測不能な動きが魅力で、小学生から高齢者まで多くの人に親しまれています。

【見どころその2】県内各地で様々なイベントを開催!

①地域文化伝承館(10/19・20、米子コンベンションセンター) 全国各地の様々な地域文化・生活文化の伝承活動のブース出展や郷土芸能のステージ発表を行います。

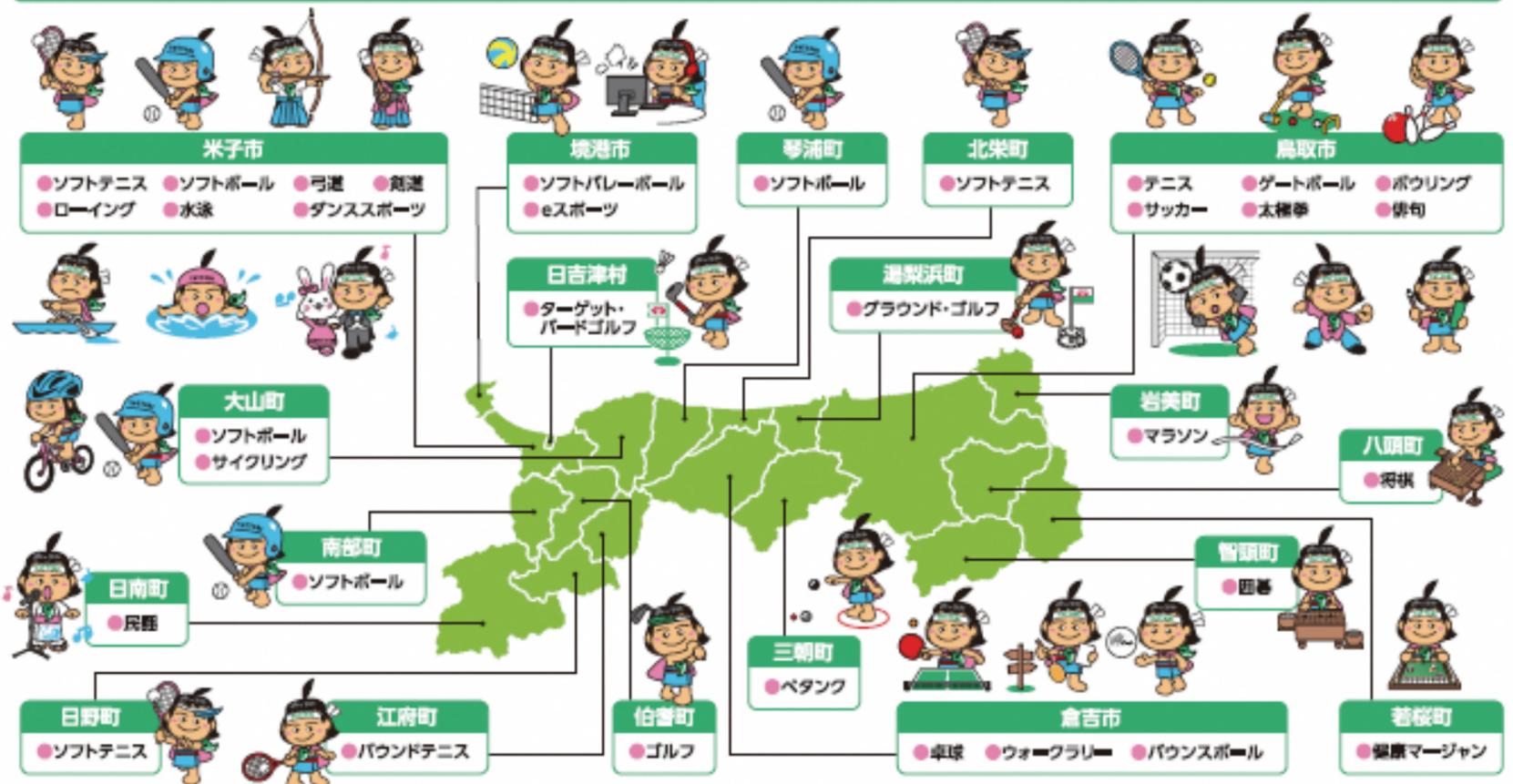
②美術展(10/19・22、倉吉博物館) 全国の高齢者の創作による、日本画、洋画、彫刻、工芸、書及び写真などの様々な作品を展示します。

③音楽文化祭(10/20、エーパーク未来中心) 音楽や郷土芸能等の文化活動を行っているグループのステージイベントを開催します。

④ふれあい広場(10/19・21 ヤマトスポーツパーク) 県内の特産品やご当地グルメのブースを設置し鳥取の魅力を発信するとともに、交流を深めることができる各種コーナーや郷土芸能などのステージイベントを開催します。

⑤ふれあいニューススポーツ(10/19・21、ヤマトスポーツパーク) 子どもから高齢者まで楽しむことができる、卓球バレー、ポッチャ、スポーツチャンバラなどのニューススポーツの体験会を開催します。

交流大会開催地 (県内19市町村・29種目)



私と方言

広報部会 加藤 雅子



東京在住の倉吉時代の友人と会食をする機会がある。そんなとき、三つのタイプに分かれる。私のようにコテコテの倉吉弁でしゃべる人、最初から最後まで標準語で通ずる人、言葉は標準語だけど、アクセントやイントネーションが倉吉弁というどっちつかずの人。どっちか一つに決めたいのに、なんだか往々吉弁のほうがかたくなってしまう。

学生時代、帰省するとき寝台特急出雲を利用して、朝早く浜坂駅に着いて、訛りのある車内放送が流れると「ああ帰ってきたなあ」と心が弾んだものだ。東京に住んで長年になるが今でも鳥取空港に降り立つと知らない間に倉吉弁になっていく。

子どもの頃、バケツとタモを持って近所の仲間と近くの小川に行った。「ねえ、ぐんちゃあ、や石の下に隠れている、ぼっかあ」を捕るのが目的だ。捕れた魚の数を競ってみんな必死。女の子はスカートが濡れないように、からげて魚を追った。

くたびれると、河原に寝転がって青い空と流れる雲をながめながら色んなことを話した。学校であったこと、友だちのこと、家族のこと、些細なこと、喧嘩を始める子もいた。

みんなよく笑った。なつかしい私の原風景だ。倉吉弁でしゃべっていると、あの頃の風のおいや草木のおいが、私をふんわり包んでくれる。

随想リレー

鳥取県出身のオリンピック選手、パラリンピアン

古田直輝選手

鳥取県南部町出身の古田直輝選手(27歳)は、米子工業高卒で、現在はNTT東日本に所属しています。古田選手はロイヤリング男子軽量級ダブルスカルに出場し、東京オリンピックではロイヤリング大陸予選で1位を獲得しながらも代表入りを果たせず、今回が悲願の初出場となりました。ロイヤリングはオリンピックの中でも歴史が古く、第2回パリ1900大会から実施されています。水上の直線コースでオールを使つてボートを漕ぎ、順位を競います。

古田選手は7月28日の予選と29日の敗者復活戦で上位進出を果たせず、準決勝進出を逃しました。その後、31日の順位決定戦に臨み、全体の14位で大会を終えました。8月7日には南部町役場を訪れ、出場報告を行い、4年後のロサンゼルスオリンピックを目指す決意を示しました。

三上紗也可選手

米子市出身で日本体育大学大学院に在学中の三上紗也可選手(23歳)は、米子南高校卒で、女子3m板飛込に出場しました。三上選手は前回の東京オリンピックに続き、2大会連続の出場を果たしました。東京オリンピックではメダルが期待される中、準決勝で板を踏み外し、16位で決勝進出を逃す悔しい結果に終わりました。しかし、その後、女子では数人しか成功できない大技「5154B」(前宙返り2回半2回ひねりえび型)の精度を高め、国際大会での表彰台常連となり、パリオリンピックのメダル候補と評価されるほどに成長しました。

今大会では、2回目と3回目の演技でミスが続く点が伸び悩む中、最終5本目で大技「5154B」に挑戦しましたが、失敗に終わり、決勝進出は果たせませんでした。それでも、東京オリンピックに続く出場で、多くの県民が彼女の努力と勇敢な挑戦に感動し、勇気づけられました。

森卓也選手

森卓也選手(50歳)は神戸市出身で、CHAXパラアスリートチームに所属しています。ロイヤリング男子シングルスカル(運動機能障害者B1)に出場し、見事8位入賞を果たしました。兵庫県神戸市から1995年に阪神淡路大震災を契機に鳥取県米子市へ移住。生まれつき脊柱管が極度に細く、22歳で「脊柱狭窄症」と診断され、34歳から車いす生活を送りました。

40歳で砲丸投げを始め、協議開始から1年足らずで日本記録を更新。その後、円盤投げでも日本記録を更新しましたが、2020年に右肩を負傷し投てき種目での選手生命が終わりました。新たな競技を模索する中、ロイヤリングと出会い、未経験ながら3ヶ月で基準タイムをクリア。2024年4月のアジア・オセアニア予選でパリパラリンピック出場を決め、本番では右ひじの痛みにもかかわらず、体格に勝る海外選手と競い合い、見事8位に輝きました。

高橋峻也選手

高橋峻也選手(26歳)は米子市出身で境高校卒、現在はトヨタ自動車に所属しています。彼は陸上やり投げ(上肢障害F46)に出場しました。3歳で脊髄炎を患い右腕に障害が残りましたが、小学校3年生から野球に取り組み、境高校では甲子園に出場するほどの活躍を見せました。

その後、野球の実績が日本福祉大学の関係者の目に留まり、投てき選手としてのスカウトを受け、大学入学後に入り投げに専念しました。東京パラリンピックへの出場は叶いませんでしたが、「継続は力なり」の精神で練習に励み、フォーム改善と生活習慣の見直しを行った結果、日本記録を更新。パリパラリンピック代表に選出されました。パリパラリンピックでは6位入賞を果たし、目標のメダルには届かなかったものの、憧れの大会で力を出し尽くしました。

鳥取しゃんしゃん祭

一般社団法人鳥取市観光
コンベンション協会
会長 西垣 豪

昭和40年から始まりましたこの祭もお陰様で60周年を迎えることが出来ました。8月13日に記念式典と前夜祭、14日に一斉傘踊り、15日に市民納涼花火大会を盛大に開催し無事に終えることが出来ました。

コロナ禍前には参加連数が120連超え、踊り子の数も4,000名を超え拡大発展を続けていきましたが、コロナ禍で開催中止や布勢運動公園での代替開催など厳しい時期もありました。ようやく昨年より中心市街地開催に戻し、今年は97の参加連と2,700名を超える踊り子の参加を頂き、あるべき姿を取り戻し、たくさん笑顔と傘の華を咲かすことが出来ました。

今年も鳥取西高校や青翔開智高校など多くの高校にも参加頂きました。一斉傘踊りの沿道観客者数も過去最高の24万人超となり、街が一つになれたと実感しています。

ふるさとの夏祭り

三朝温泉「キュリー祭」

三朝町役場 青木 大雄

山陰の夏祭りのなかで一風変わった名称で目を引くのが「キュリー祭」。三朝温泉(みささ)の夏の風物詩として1951年(昭和26年)に始まり今年で67回目を迎えた。

「キュリー祭」は、世界屈指のラジウム(ラドン)含有量を誇り、その泉質と効能で名をはせる同温泉が、放射線研究の第一人者として知られ、のちにパリ大学初の女性教授に就任したマリ・キュリー(Marie Curie)の遺徳を称えつつ、その恵みへの感謝の気持ちを含めて、「三朝」の名を世界に発信しようとしたもの。

同温泉(町)では、これがきっかけとなり、1990年には南仏の温泉町ラマルー・レ・バン町(Lamartou-le-Bains)と友好姉妹都市提携が結ばれ、今日まで地球の反対側にある「小さな温泉町」とのあたたかい交流が続く。

た実感しています。私自身、この祭に関わって15年になりますが、年々多くの傘踊り連が年間通して活動し、ふるさと鳥取を県内外で発信してくれるようになりました。

鳥取市観光コンベンション協会としては、地域最大のイベントであるしゃんしゃん祭をはじめ、さまざまな事業展開を今後も行い、多くの関係団体としっかりと連携を図り、鳥取の観光や物産振興に寄与していきたいと考えています。



これからも東京鳥取県人会の皆様、引き続きご支援をよろしくお願い致します。

境港「みなと祭」

境港観光協会

この記事を書かせていただくにあたり、観光協会に保存されている過去のみなと祭の写真を久しぶりに見直してみました。

幼いころから県外で暮らしていたこともあり、昔のみなと祭の様子を直接肌で感じたことはあまりないのですが、古い写真から感じる懐かしさには見入ってしまいました。

市史によれば、「港まつり」は昭和10年ころから台場公園で開催されていたとあります。戦争が激しくなり中断したものの終戦の翌年昭和21年より復興「みなと祭」として復活したそうです。横浜、神戸等でも同様の祭が始まりましたが、日本海側の港では境港が唯一終戦の翌年からスタートしているそうです。したがって終戦から80年となる来年令和7年のみなと祭は80回記念の祭りとなります。

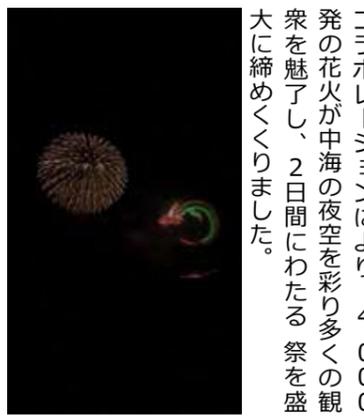
米子がいな祭

米子がいな祭振興会事務局

8月17日(土)・18日(日)に「高鳴る鼓動、君が主役の暑い夏」をテーマとして第51回米子がいな祭が盛大に開催されました。

今年のがいな祭は晴天の中、がいな太鼓のふれ太鼓にはじまり、オープニングパレードの後、航空自衛隊美保基地のC-2、陸上自衛隊美保分屯地のC-1の飛行展示、駅前特設ステージでは今年50周年を迎える米子がいな太鼓保存会による「米子がいな太鼓50周年記念ステージ」が行われました。

また、祭会場一帯を舞台とし、両日合わせて109チームが躍動したがいなCONパレードでは、各チームが華やかかつエネルギー溢れる踊りで観衆を魅了しました。商店街や文化ホール多目的広場などでは勇壮ながいな太鼓の音が響き渡り、夜の万灯パレードではおんな万灯3基を含む大人連30基、子供連5基が妙技を披露し、多くの観衆を沸かせ、駅前通りを万灯一色に染めました。



祭のフィナーレを飾る大花火大会では、県内初の500基のドローンとのコラボレーションにより、4,000発の花火が中海の夜空を彩り多くの観衆を魅了し、2日間にわたる祭を盛大に締めくくりました。



お祭り風景とキュリー夫妻の像の前にたたずむフィリップ・セトン駐日フランス大使と松浦町長



第79回みなと祭(7月21日)水木しげるロードから見る花火

地方創生ばなし《その22》

医療法人社団 因幡会

理事長 林 昭利



私たちは関東圏で8つの歯科クリニックを展開する医療法人です。私自身は鳥取で育まれたホスピタリティにより、世界の技術や知識を継続して学ぶ力を培ったと感じています。

現在、ニューヨーク大学のJapan programでリーダーを務めています。日本の歯科医療の水準が向上すれば、自ずと

鳥取の歯科医療レベルも高まると考えています。そのため、今後は鳥取の歯科医師にもこのプログラムへの積極的な参加を促進したいと願っています。

また、小規模ながら鳥取市内で歯科技工所を運営しており、関西からの技工士のUターン就職支援や鳥取技工士学校の最後の卒業生の就職先確保に尽力してきました。これも全て住民の健康を守るための活動です。口腔内の細菌は血液を通じて脳や心臓に感染し、深刻な疾患を引き起こす可能性があるため、歯科医師や技工士は日々進歩する技術や知識を学び続ける責任が

あります。

鳥取に技工所がなくなれば、地域の歯科医療の水準が低下しかねません。そのため、経費がかかることを承知で関東圏の技工所を受注しています。最近では、鳥取の先生方もこの取り組みに共感し、発注していただいています。

私は常に鳥取の魅力を自慢し、コロナ禍前に医療法人グループ全体で鳥取ツアーを企画し、美味しい食事や観光地を楽しむ機会を持ちました。その結果、スタッフが自分の家族を連れて鳥取に訪れるようになり、ふるさと納税で特産品を購入するなどの反応がありました。特産品に関連して、東京で4店舗の飲食店を運営しており、鳥取の食材を使用しています。例えば、大江の郷の「天美卵」は

小原社長に直接相談し、井尻農園の井尻社長からは直接トマトをいただき、両者の素晴らしい食材を店舗で提供しています。

昨年には「やきにく屋はやし」を開店し、鳥取和牛の魅力の世界に広めることを目指しています。また、県外に住む自身の立場を生かし、観光事業に参入する計画もしています。観光客に「来て良かった、また来たい」と思ってもらえるようなホスピタリティを提供する仕組み作りを進めます。

さらに、鳥取の未来を考え、県外に住む鳥取出身者や地元の高生にアプローチし、人口減少や過疎化問題の解決に向けた対策を考えていきたいと思えます。微力ながら、様々な面で鳥取に貢献していく所存です。

二十世紀梨の木の縁

広報部会 石井 健蔵

安左衛門である。

120年を経て、たまたま、松戸市の大橋小学校と湯梨浜町の東郷小学校のオンライン交流授業の場でお出会ったのが、松戸覚之助と更田安左衛門のひ孫にあたる、(株)新松戸造園社長の松戸克浩さんと小学校教師の更田匡史さん。お互いに、大いに驚いたそうである。その縁で、このたび社員旅行で鳥取を訪れることになった(株)新松戸造園さんを更田さんがアテンドしているのがこの写真。いわば、二十世紀梨の「生みの親」と「育ての親」の子孫が1枚に収まっている、記念すべき写真なのである。

現在、松戸市では二十世紀梨の栽培を広げる「二十世紀梨里帰りプロジェクト」という動きがあり、大橋小学校の梨園で、子どもたちが地域の歴史を学び



同窓会だより「鳥城会」

(鳥取西高等学校関東地区同窓会)

鳥城会事務局長 松田 誠司

鳥城会は今年50周年を迎えます。その歩みをご紹介させていただきます。「鳥城会」は1974年に関東地区在住の鳥取第一中学校(1873〜1949)の同窓会として一中42〜46期生が中心となって創設されました。その後、鳥取高等女学校(1888〜1949)同窓会・東京翠紅会の加入、1983年に鳥取西高等学校(1950〜)卒業生の参加が始まり、2004年に会則を改訂し鳥取一中・鳥取高女・鳥取西高を包括する現在の「鳥城会」になりました。主な活動は、総会・懇親会(10月)、会報発行(今年で33号)、鳥取ゆかりの地を

巡る 史跡巡り(今年で19回目)などで会員の親睦を図っています。多くの同窓会や県人会の状況と同様に鳥城会も若手の加入が課題で、会員の高齢化(平均73歳)、会費確保の問題を抱えています。この状況は過去の会報(1991)にも見ることができ、2000年代以降の個人情報保護法、変化する帰属意識、パーソナルコミュニケーションの多様化の中、関係の方々もご苦労されている通り、接点や認知、魅力や意味を改めて問い、試行錯誤の姿勢が求められていると痛感しています。この3年間取り組んだ新しい施策は、新型コロナナウイルス

又感染拡大でのオンライン総会(2021)。出席できなくても総会議案採決に参加できる書面評決。ホームページの開設(2021)、東京東雲会・関東地区鳥取東高同窓会をお手本に。新入会員歓迎会(2022)。参加者伸び悩みの総会(昨年80名)は50周年の今回を機に「交流」「つながり」をテーマに幹事経験の先輩方の思いや、視察させて頂いた東京米城会・関東地区米子東高同窓会の素晴らしい参考にも参考に「エンジョイ」を試みる予定です。新しい取り組みが功を奏するかどうかは分かりませんが、毎月一回行う一時間弱の鳥城会オンラインミーティングがこれらをドライブしているように思います。まだまだ手探りですが次の50年に向かう鳥城会の過去・現在・これからを紹介させて頂きました。



同窓会だより「東京いも太会」

(美保中学校関東地区同窓会)

会長 赤羽 益三

我が母校である米子市立美保中学校は弓ヶ浜半島の真ん中辺りにあり、航空自衛隊美保基地と米子空港(鬼太郎空港)に隣接した所にあります。

戦後、焼け跡から立ち上がる日本国民の復興への勢いはすさまじいものがありました。弓ヶ浜半島の砂地も、一面サツマイモ畑に変わって行きました。昔からこの地の住民は、飢饉に見舞われる度に、いつもそうして来ました。この人達が自らを「浜の芋太」と呼ぶようになったのは、おそらく江戸時代にさかのぼる。これが「東京いも太会」と称している所以です。「ああ、ありし日は、予科練の若人たちが練武の地・・・」

このような趣旨のもと、「東京いも太会」懇親会を毎年9月に実施しています。今年45周年を迎えるに至っています。懇親会には「稲田屋」さんの郷土料理と郷土のお酒で浜の香りに浸りながら盛り上がっています。



子供の頃、見かけた「いも畑」は今では「ネギ畑」に様変わりしていますが、「東京いも太会」は、芋づるの如く繋がっている仲間です。この強い絆を更に深めて、今後「東京いも太会」を末永く続けて行く所存です。

【編集後記】

「暑さ寒さも彼岸まで」、先人のお言葉に感謝申し上げます。会員からの近況便り(500字)、読者の感想(200字)をお待ちしています。事務局宛て手紙、FAXでお寄せ下さい。編集子